



# 幸樹

こう じゅ

## 第75号

2021年6月1日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

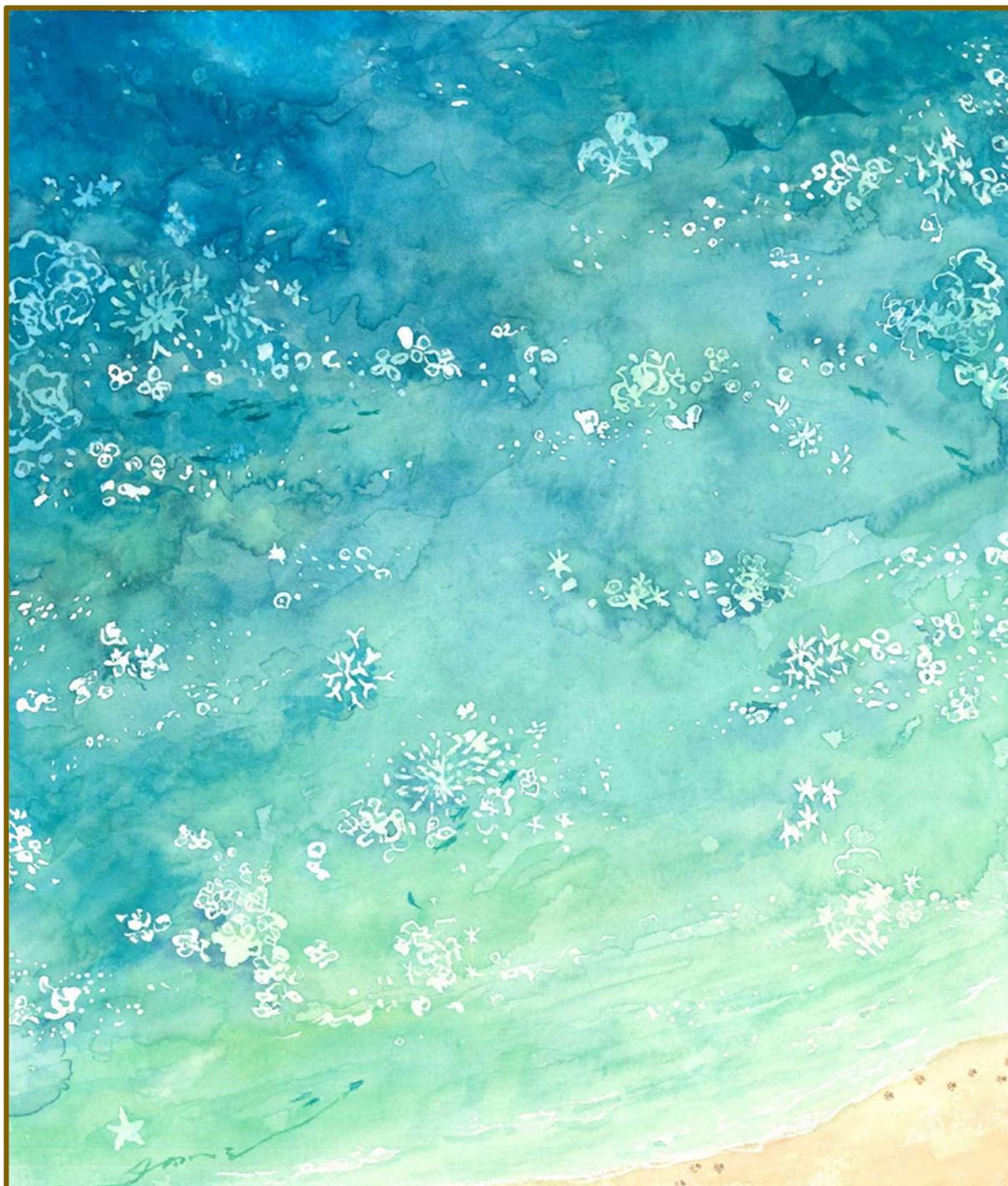
あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550



『珊瑚』

絵 高橋 聖大

「さんしょうカフェ」 6月15日(火)。今回もご利用者・職員のみで行います。

# 柴田和子さんを偲んで



いつも、さんしょうの温かで思いやりのある雰囲気を中心にいた柴田和子さんが、桜が散って少し経った頃、この世を去りました。享年 83 歳でした。

和子さんは、レビー小体型認知症、難病の進行性核上性麻痺を患い、病気が進行し常に介護・見守りが必要になったとき、在宅生活を希望しました。その願いを実現するために長女的美砂子さんが仕事を辞めて支えてきました。和子さんを偲んで、美砂子さんに話をお聞きました。

(聞き手・看護師 大井川 新)

## ●息子の介護体験、さんしょうとの出会い

和子さんは、「三和病院が訪問診療してくれるなら、入院しないでそれでいい」と在宅療養を希望していました。胃ろう、経管栄養、点滴などの選択肢もなかったそうです。それは、長男の介護体験が大きいと美砂子さんは語ります。

二世住宅を建築したばかりの25年前、息子さんが32歳の若さで脳幹出血となり、寝たきりの状態となってしまいました。入院中であっという間に褥瘡ができ、治癒するまで苦勞されたそうです。和子さん、美砂子さん、息子のお嫁さんの3人が交替で介護にあたりました。その甲斐あって、自宅では一切褥瘡はできませんでした。「母は、兄の前開きのパジャマなどの介護服を作ったり、体に合うクッションを作ったり、担架も手作りしていました。とにかく工夫して何かを作っていました。めめめめもぐずぐずも一切しない気丈な人でした。そういう母の姿を見ているから、私も色々工夫しながら母の介護ができたのかもしれない」と、美砂子さん。訪問診療の医師は、褥瘡のない息子さんを診て、「介護は愛だね」と言われたそうです。

幸樹会と看多機さんしょうには、和子さんに介護が必要になったとき、美砂子さんがたくさん施設見学する中で出会いました。見学されたとき、「コーヒーを入れてくれるおじさん、耳の遠いご老人がスタッフの行き来を眺めている、職員があたふた一生懸命やっている、そんな、隠さない

「普通の生活が大好き！」だった。



▲お祭りで。和子さんの後ろに町内にある佐渡ヶ嶽部屋の力士たちの姿も。  
▶娘の美砂子さん(右)と。

空気がとても良い」と感じられたそうです。介護も日常生活の延長だと考えていた美砂子さんは、「老人は、自分は動けないけれど、職員の皆さんが動いているのを見ながら一緒に動いている気持ちになっているはずで、ずっと座っていて暇じゃないのかな、活動させなくちゃいけないかな、と思うかもしれませんが、そうではなく、活動している人を見せてあげることで、一緒に活動しているつもりになっていると思います。だって、家ってそうじゃないですか。家族の行き来が見えるのがいいんです」と話します。

## ●介護グッズよりも好きな食器で

専業主婦で家族を支えてきた和子さんは、お料理が得意でした。「母の手料理は本当に美味しかった。おやつは必ず手作りで、チマキなんかはもう絶品！」と美砂子さん。和子さんは自慢の手料理を素敵な食器に盛りつけて、ご家族や親せき、近所の方、警察官だったご主人の来客をもてなすことが大好きだったそうです。お裁縫も得意で、ソファカバーやクッションを作ったり、また、犬小屋も手作りしたりと、作ることに工夫が大好きで、どれをとってもプロ並みだったそうです。

「母は、とにかくきれいな物が好きでした。



## 介護職のこころ

ケアステーションゆず・介護職員 井上 由美

幸樹会に入職し3ヶ月が過ぎようとしています。たったの3ヶ月、されど3ヶ月。この間に会ったご利用者の方々、そのご家族、たくさんの出会いの中で皆様に助けて頂きながら充実した時間を過ごさせて頂いています。

去年、私は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で職を失い、失業手当を受給しながら6ヶ月の介護講座を受講しました。定員20名を満すことはまずないと聞いていた介護講座に50名以上の応募がありました。選考面接の際、「3Kの現場で働く覚悟は出来ているのか」と面接官に問われました。合格しなければ先がない！と焦燥感いっぱいだった私は、胸の中の不安を隠し覚悟の思いをその面接で語り、合格の通知を受け取りました。

が、正直その不安が拭い去られることはないまま入職の日を迎え、現在に至っています。

### 「気配り・気遣い・気合！」の3Kで

私が「不安」だと感じていたそれが何だったのか、今思えばそれはとても些細なことでした。

毎日、新しい発見、驚きの連続の中で、時に悩み、振り返りこれの良いのかと模索しながらも「楽しい」と感じられている事に感謝しかありません。

3K、人手不足の問題が深刻化し外国人労働者が急増した1990年に登場し流行語となった言葉だそうです。今や新3K、6Kなどの表現まであるとか。介護職はその筆頭に挙がるのかもしれませんが。私も腰や肩の（これは私の2K問題）痛みには悩まされていますが、ユーチューブ・ヨガでリフレッシュの毎日です。

ご利用者との会話から学ぶこと、ありがとうの一言、笑顔。たくさんの積み重ねが私の支え、励みになり成長させて頂いているのだと感じずにはられません。反省することもたくさん。こうすれば良かったのではと、訪問の帰り道に頭の中がぐるぐるとする事だらけではありません。

この年齢で「未熟者」と自らを呼ぶのは恥ずかしいのですが、『気配り、気遣い、そして気合！』、私なりの3Kで頑張っていきたいと思っています。もうすぐ暑い夏がやって来ます。水をガブガブ飲みながら自転車に乗り皆様の元へ！そして寒くなった頃、自分がどう成長できているか、楽しみにしています。

きれいな食器、ペーパーナフキン。きれいなドレス…」  
病気が進行し、スプーンやお箸もうまく持てなくなり、美砂子さんは、取っ手の大きなプラスチックのコップや吸い飲みなどの介護グッズを購入しました。それでも、コップを床に落としてしまい、拭いていると「ごめんなさい」と和子さんは謝っていたそうです。

そんな日々の中、落として割ってしまうからと思って使っていなかった江戸切子のワイングラスに、ほんの少しか飲み物を入れて和子さんに出したところ、いつの間にか上手にワイングラスを持って飲み、また上手にテーブルに戻したそうです。そこで、和子さんお気に入りのソーサー付きコーヒーカップにお茶を入れて出したところ、やはり上手に小さな持ち手を持って、お茶を飲まれたそうです。「びっくりしました。上手に飲むんです。かえって、介護用コップの方が何故か落とすんです。介護グッズを使っていると、介護する側も味気ないというか。母もそう思ったんですかね。きれいな食器を使うと介護する側も満たされるんです。それからは、彼女が好きだったこと、料理とか、きれいな食器とか、そういったことを、なぞっていけばいいのかな、と思いました」と、美砂子さんは振り返ります。



きれいな食器、ペーパーナフキン。きれいなドレス…」  
病気が進行し、スプーンやお箸もうまく持てなくなり、美砂子さんは、取っ手の大きなプラスチックのコップや吸い飲みなどの介護グッズを購入しました。それでも、コップを床に落としてしまい、拭いていると「ごめんなさい」と和子さんは謝っていたそうです。

### ●「最後まで、母らしい普通の生活を」と

いよいよ、和子さんがベッドでの介護となった時、美砂子さんは、「最後まで、普通の生活が大好きだった母らしい生活をさせてあげよう」と思ったそうです。

最期の一か月間、美砂子さんは、和子さんに手作りマスクをつけ、マスクに霧吹きをしたり、ミストで口をうるおしたりして過ごしました。たまにハッカ油を少し混ぜたりもしました。和子さんの反応もなくなっていたころ、美砂子さんが独り言で「こんなによくやってくれる娘いないよ、ありがとうって言うんだよ」とぶつぶつ言っていたら、和子さんがニコッと笑って、「ありがとう」と言われたそうです。「母は気の強い人で、ありがとうなんて絶対に言わない人でしたから、びっくりしました。私はもうそれで大満足なんです」と。

「私が介護を一人でやりきれた理由は、さんしょう、あんず訪問看護、近所のおばさん、親せきなどのおしゃべり。リハビリの人たちも、私の工夫に付き合ってくれ、アドバイスをくれた。こうした交流が楽しく元気に介護ができた理由です」と、美砂子さんは語ります。

いつも明るい美砂子さんに幸樹会の職員たちも学ぶことが多く、励まされていました。

柴田和子さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。



## デンマーク便り...③⑤

ラスムッセン 京子

スウェーデンのアネットニーバーク麻酔医学会会長から、近隣諸国の麻酔医に対し援助の打診がありました。スウェーデンは新型コロナウイルス感染の第3の波の真っ只中にあります。病院の集中治療室は、多くの新型コロナウイルス患者の入院で医療崩壊寸前だという危機感が広がっています。感染はヨーロッパの大部分で減少していますが、スウェーデンでは3月以降急激に増加しており、感染が最も深刻になっている国の一つです。

### スウェーデンから麻酔医支援要請



デンマークの J・H・ペーターセン麻酔医学会会長は、麻酔医のうち1割を応援で派遣できると言っています。または、患者を迎えに行き、各地の病院で受け入れることができると応えています。昨年春に、デンマークで感染がピークに達したとき、150人の感染患者が全国の病院の集中治療室に入院していましたが、現在は20~30人です。しかし、正式に援助を要請しなければならないのはスウェーデン政府ですが、これまでのところ援助要請は出ていません。

話は変わりますが、アストラゼネカとジョンソン&ジョンソンから購入したワクチンの使用許可が出なかったため、外国に提供するという話がありました。ところが国民の反対でデンマーク人の希望者にワクチン注射が開始されました。

先日、一番でこのワクチン接種を受けた人は、インドに渡航するという電気工事士でした。会社がインドでのワクチン保存冷凍庫（ファイザーのワクチン用）設置の仕事を受注し、そのために出張するということでした。

若い人々は未だファイザーのワクチン接種ができないのですが、今回のアストラゼネカとジョンソン&ジョンソンのワクチン接種は、かなりの希望者数だそうです。もちろん海外旅行、休暇のためワクチン注射を受けたいという人もいます。

## 新入職員の紹介

からたち薬局・薬剤師 池田 清恵

5月から、からたち薬局で勤務しています。

コロナ禍で気の休まらない日々が続きますが、その中でも笑顔を忘れず、薬剤師として少しでも皆さんのお役に立てるよう、業務して参ります。

よろしくお願ひします。



ケアステーションゆず・介護福祉士 那須野 未来

5月に就職いたしました。以前はグループホームと有料老人ホームに7年程勤めていました。

訪問介護は施設とは180度仕事内容が違い、難しさを感じている一方楽しさを感じています。

一日も早く仕事と道を覚え、利用者様が安心して過ごせるように努めたいです。



## 今年も、ツバメさんがやってきました

今年は、からたち薬局入口とさんしょう入口のピロティの2カ所に巣をつくり、卵を温めはじめました。無事に育ってくれればいいのですが…。



## 八柱学習会

●6月学習会はお休みとします。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

7月16日（金）18：30～、あつまーれ幸樹

「地域ケアの変遷と未来-1975~2020の時代体験と実践から語る③」

お話し・武井幸穂氏

《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

1,090KWh

幸樹会館電力使用量 3632KWh 自給率 30.01%



## 職員募集！非営利・働きがいある職場 看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり  
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550